



テーマ：北斗2030

10年後どのような地区になってほしいですか そのために必要なことは？

■住みなれた地域に、元気な姿で暮らし続ける

不便になったから街に出て行けではなく、どうしたら元気に暮らせるか地域自分たちで考えていくことが必要。

- 様々なサービスを組み合わせながら、そして周りに頼りながら暮らしていく
- 地域住民自らが元気な姿を示して、農業者など人を呼び込む工夫を考える
- 「話せる場、集まれる場」として住民センターや、街とは違った北斗ならではの景色を生かした高齢者の住まいがあってもよい。
- 顔が見える住民同士の関係で、地域の困りごとを解決できる地域運営組織が実現できれば、安心して暮らせることにつながる。やる気があればできる！

■生活していく上での不安が解消されていてほしい

買い物やひとり暮らしの不安が解消できるような、支えあって暮らしていける環境づくり。

■若い人も高齢になっても働き続けられる場所がある

付加価値のある農作物の生産や、家庭菜園からの料理、漬物を花かいどうでちよこっと販売する。

■働く場があり、活気のある場所

遊休地（畑）等で加工品となる原材料を作付け、新たな特産品を作ることができれば。

■四季の里周辺を中心に人を呼べる地区

四季の里の裏に桜やすももの木できれいに整備をしたり、とわ北斗のワインを10年後には3万本製造して、ワインを生かした交流を。

■充実した毎日を実現するために、つながりが今以上にある地域

■不便ながらも充実した子育て環境がある

子どもや地域のたまり場、居場所づくり。

■子どももシニア世代も元気に過ごせる地域

住民センターサロンに子どもが来て、多世代交流の場になれば。グラウンドを生かして、市街地の子どもも遊びに来てもらえる仕組みができれば良い。

■北斗の強み「団結力・行動力・和気あいあいとした雰囲気」を維持する

そのために、気軽に顔を合わせてお茶を飲めるような居場所づくりや、多くの方に集まってもらえるようなイベント等の企画をしたい。

■新たに人が来る魅力ある地域

北斗地区は、山恵や花かいどう、とわ北斗、月のうさぎなど揃っていて、生活しやすい町だねと言われる。公営住宅や空き家を上手に活用して若者が来てくれるとよい。住民センターには声をかけ合って集まり交流する。

■人がやさしく、笑顔で安心して暮らせる場所

北鷹栖団地を改修（バリアフリー）し、高齢者世帯と若い世帯が暮らせる多世代交流の住宅整備。または、高齢世帯でのシェアハウス（皆で炊事を協力）

■若い人、子どもが多い、明るい場所

現在、実施しているイベント（盆踊り、ジンギスカン、居酒屋、文化祭など）を継続して、他地域から人を呼び込む